

Japanese Laid-Open Utility Model Publication No. 1-59670

(CLAIM)

1. An ID card for a visitor used independent of a visitor registration card having a bar-cord, wherein the ID card having a bar-cord same as that of the visitor registration card, and being constructed to be easily released from a dress.

公開実用平成 1— 59670

④ 日本国 許 庁 (J P)

① 実用新案出願公開

② 公開実用新案公報 (U) 平 1—59670

③ Int. Cl. *

識別記号

庁内整理番号

⑤ 公開 平成 1 年 (1989) 4 月 14 日

B 42 D 15/02

3 3 1

A—8302—2C

G 06 K 19/00

3 5 1

A—8302—2C

G 09 F 3/00

Q—6711—5B

3/10

M—6810—5C

A—6810—5C

審査請求 未請求 (全 頁)

⑥ 考案の名称 入場者 I D 票

⑦ 実 願 昭 62—154754

⑧ 出 願 昭 62 (1987) 10 月 12 日

⑨ 考 案 者 後 藤 尚 夫 東京都大田区田園調布本町 38 番 11 号 メカノスポットロン
株式会社内

⑩ 出 願 人 メカノスポットロン株 東京都大田区田園調布本町 38 番 11 号
式会社

⑪ 出 願 人 日本ビーアール工業株 東京都文京区後楽 2 丁目 22 番地 6 号
式会社

⑫ 出 願 人 株式会社日本管理ラベ ル 愛知県名古屋市中川区前並町 16

⑬ 代 理 人 弁理士 酒 井 一 外 2 名

明 細 書

1. 考案の名称 入 場 者 I D 票

2. 実用新案登録請求の範囲

入場者特定用のバーコードを設けた入場者登録カードとは独立に用いられ、かつ上記バーコードと同一のバーコードが設けられて、着衣に剥離容易に貼付できるように構成したことを特徴とする入場者 I D 票。

3. 考案の詳細な説明

<産業上の利用分野>

この考案は、入場者管理機能を有する入場者 I D 票に係り、例えば各種イベント会場における入場者の名札として利用する入場者 I D 票に関する。

<従来の技術>

従来、各種イベント会場には、入場者の勤務先や職種等を管理登録するため、入場者受付において氏名を名簿に記入させたり、名刺の提出を求めて登録し、さらにイベント会場の各ブースにおいて、カタログ要求など入場者の要求あるごとに、その都度ブース備え付けの名簿に記帳し、または



名刺の提出を求めたりしている。すなわち、入場者や要望事項の登録管理は、当該入場者による記帳や名刺の提出が必要であり、主催者はかかる名簿や名刺を整理する作業を行なっている。

＜考案が解決しようとする問題点＞

しかしながら、最近のイベントは大形化し、出展ブース数も数百を超えるものが多くなってきているため、入場者は数百枚もの名刺を用意したり、何回も名簿への記名を行ったりする必要があるほか、主催者や各ブースに集まった名刺や記名を入場者ごとの要望事項と対応させて整理する必要がある。このため、この整理および管理の作業が極めて煩雑になるほか、この管理が不十分であると、せっかくの商機会を逃してしまうという問題点があった。

この考案はかかる従来の問題点に着目してなされたものであり、入場者入口の受付で登録したバーコードと同一のバーコードを、入場者を特定する記号データとして入場者に携帯させることにより、入場者の入場管理や顧客サービスの容易化



を図るとともに、主催者、出展者および入場者の便宜を図ることができる入場者 I D 票を得ることを目的とする。

＜問題点を解決するための手段＞

この考案に係る入場者 I D 票は、入場者特定用のバーコードを設けた入場者登録カードとは独立して用いられ、その入場者登録カード上のバーコードと同一のバーコードを有するとともに、これが着衣に剥離容易に貼付できるような構成としたものである。

＜作用＞

この考案における入場者 I D 票は、入場者入口の受付で入場者が氏名等を記入する入場者登録カードと同一のバーコードが印刷されており、この入場者登録カードとは分離して入場者の着衣に貼付される。従って、上記バーコードは入場者を特定するデータとなり、各出展ブースでは端末器によってそのバーコードを光学的に読み取るとともに、このバーコードに対応する入場者の要望事項等を書面に記録した場合に、これを出展ブース



および主催者側において、入場者とその入場者が必要とする要望事項とを対応させて保存し、以後の顧客サービス等に利用できるようにする。

＜考案の実施例＞

以下に、この考案の一実施例を図について説明する。第1図はこの考案の入場者ID票を具体的に示す正面図、第2図は同じくこの入場者ID票の断面図である。同図において、1は入場者ID票であり、これの表面には、上部に産業見本市や展示会などのイベント事項2が表示されている。この実施例では、「国際精密測定展`87」と、印刷によって記入されている。3は上記イベント事項2の下部に設けられた氏名や会社名などの入場者記入欄（表示欄）であり、例えば空白部にアンダーラインを引いた部分からなり、この空白部に上記氏名などを記入できるようになっている。4は同一入場者特定用の整理番号（IDナンバー）としてのバーコードであり、これが図示しない入場者登録カードに記入（印刷）のものと同一パターンとなっている。



また、上記入場者 I D 票 1 は複数枚が、第 2 図に示すように剥離紙 5 上に貼着されて、裏側に塗布した粘着剤 6 とともに、剥離紙 5 から指で簡単に剥離できるようになっている。この場合において、上記入場者 I D 票 1 および粘着剤 6 は、入場者の着衣に容易に貼付できるとともに、その着衣を傷めずに容易に剥離できる材料から作ることが望ましく、例えば入場者 I D 票 1 自体は白地の薄くて丈夫な布地とすることが望ましい。また、上記複数枚の入場者 I D 票 1 上の各整理番号（バーコード）は送り番号としてあり、従ってイベントの予想入場者数以上の枚数を連続通し番号で作成しておく。また、7 は剥離紙 5 上に入場者 I D 票 1 と、組で設けられた登録カード番号票で、これが入場者登録カード、受取り名刺その他の関連書類に貼付される。

なお、図示しないが、この入場者 I D 票 1 は入場者登録カードと対で併用され、この入場者登録カードには入場者 I D 票 1 に記入のものと同一のバーコードが印刷されている。そしてこのバーコ



ード付近に入場者が入場者入口の受付にて任意に書き込んだり、丸印を付けたりして指定できる氏名、会社名、住所、所属部所、職位などの表示欄が設けられている。

次に、この考案の入場者 I D 票の使用方法について説明する。

まず、入場者は入場者入口の受付で、上記入場者登録カードおよび入場者 I D 票 1 を係員から受け、登録カードには既述のように氏名、住所、会社名、職位などを所定のフォーマットに従って記入する。また、これに続いて、係員が剥離紙 5 から剥離しようとする入場者 I D 票 1 には氏名や会社名のみを記入する。この場合に各入場者が受ける入場者登録カードおよび入場者 I D 票 1 上のバーコードは同一とする。こうして、氏名等を記入した入場者登録カードは受付に差し出し、係員はこれをコンピュータで処理して顧客データとしてフロッピなどのメモリに格納する。また、入場者 I D 票 1 は裏面に粘着剤 6 が塗布させているので、この入場者 I D 票 1 を入場者の着衣の胸が



ケット付近に貼付する。入場者はこの入場者ID票1を名札として、展示が行われている各ブースに行く。ここで、興味を惹く展示のブースがあった場合において、展示商品に関する要望事項がある場合には、そのブース備え付けの端末装置に対し、パネル上に入場者の要望事項を項目別に表記したバーコードのうち、所定の要望事項に対応するものをペンスキャナーで読み込ませ、この動作に前後して、入場者ID票1上のバーコードである整理番号を、同じくペンスキャナーで読み込ませる。端末装置は図示しないメモリに上記整理番号（バーコード）と要望コードナンバを直ちに記憶させ、これを同じく備え付けの印字手段によりペーパー上に印字出力させて、出展者の顧客データとして用いることができる。また、必要に応じてブース来訪時の日付や時刻を同時に印字させることもできる。

一方、入場者登録カードは、コンピュータで処理してメモリに登録し、各ブースへローカルエリアネットワークを通じて伝送することも可能であ

るが、簡便な方法として、イベント終了後にまとめてバッチ処理を行い、データファイルに落とし、各ブースより回収したメモリ手段（フロッピディスク等）の記憶データと対照し、各ブースごとの特定入場者の各要望事項などの各種データを作成、保存することができる。

＜考案の効果＞

以上詳述したように、この考案によれば、入場者ID票を、入場者登録カードと同一のバーコードを有するものとし、さらに裏面に粘着剤を設けて着衣に剥離容易に貼付できるように構成したので、整理番号たるこのバーコードによる入場者の特定、要望事項の内容などの顧客データの処理、登録および管理を迅速かつ正確に行なうことができ、入場者、出展者および主催者の便宜をともに図れる等の効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案にかかる入場者ID票の一実施例を示す正面図、第2図は同じく入場者ID票の断面図である。



1 . . 入 場 者 I D 票 、 4 . . バ ー コ ー ド 。

実 用 新 案 登 録 出 願 人 メ カ ノ ス ポ ッ ト ロ ン 株 式 会 社

同 日 本 ビ ー ア ー ル 工 芸 株 式 会 社

同 株 式 会 社 日 本 管 理 ラ ベ ル

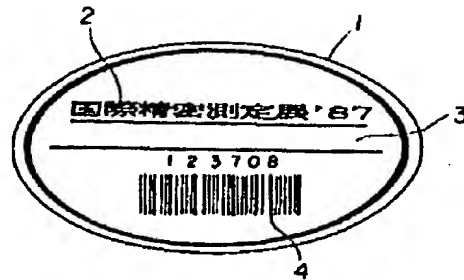
代 理 人 弁 理 士 酒 井 一

同 兼 坂 眞

同 兼 坂 繁



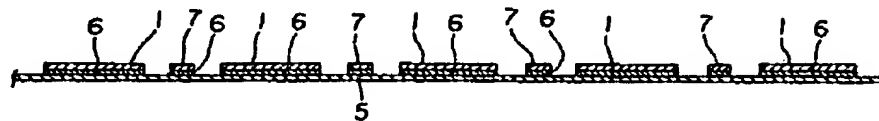
第 1 図



1... 入場者 ID 証

4... バーコード

第 2 図



実用新案登録出願人 メカノスボットロン株式会社

ほか2名

代理人 酒 井

一

910

ほか2名

実開 1- 59670